

継続事業



トルコ・シリア地震被災者緊急支援事業

— 内戦で困窮したシリアの人々にフォーカスして人命を救うための支援を届ける —

活動地域: トルコ/ガズィアンテップ県・ハタイ県、シリア北西部/アレppo県・イドリブ県
 事業期間: 2023年2月～2024年12月(1年11か月)
 事業規模: 4,591千円(総事業規模: 2,392,942ドル)
 主な支援者: 個人、企業、支援組織

6,000人以上

シリア北西部において心のケアの支援を受けた女性と女子の数

16,901人

シリア北西部において水と衛生に関する支援を届けた人数(うち女性8,822人)

11地域

トルコ南部のハタイから南東部ガズィアンテブ(最も被害の大きかった被災地)で支援を展開した地域の数



課題

2023年2月6日にトルコとシリア北西部でマグニチュード7.7規模の地震が発生。とりわけ、同日午前4時17分にトルコ南部を襲った地震は、1939年以降同国で記録された最大規模を観測し、その後、同日中に少なくとも78回の余震が報告されました。そして、2011年から12年以上にわたり内戦が続いているシリアの人々を襲いました。一方、シリア北西部では、地震発生前に、すでに410万人もの人々が人道支援を必要としており、特に、トルコとシリアの国境の両側にある地域では、およそ200万人もの人々が、簡易テントなどで避難生活を送っていました。仮住まいの衛生状態は劣悪で、水害やコレラの流行など、すでに過酷な状況にあったところに地震が発生し、避難民に追い打ちをかける形となりました。

活動内容

CAREはこの地震発生以前からシリア北西部で人道支援活動を展開しており、地震発生後も、同地域で長年活動しているCAREトルコが中心となり、現地のパートナー団体と連携して支援活動を行いました。本年度は、特に、地震でトラウマなどを抱えた女性と女子を対象とした心のケアの支援に注力しました。そのうえで、女性と女子を保護し、元気づけることを目的として、意識とライフスキルの向上を目指した様々なセッションも実施しました。一方、水と衛生にかかる支援においては、シリア北西部イドリブ県とアレppo県をあわせて21か所の国内避難民キャンプにて、安全な水の提供、汚泥除去、ゴミ収集と撤去などの活動も行いました。課題としては、ジェンダーに基づく暴力および子どもたちの保護の強化があげられます。特に、早期婚、児童労働、暴力のリスクが増大しており、保護者と離ればなれになった子どもたちを追跡し、家族と再会させるための取り組みが喫緊の課題となっています。

受益者の声



ギョニユルさん

トルコのサマンダーで生まれ育ったギョニユルさん。シリアとの国境に近いこの小さな町は、地震で最も大きな被害を受けた町のひとつです。2人の娘の母でもあるギョニユルさんは、地震の少し前に骨髄移植を受けた下の娘が被災後の厳しい生活環境下で健康状態が悪化することを心配しています。「震災後の最初の数か月は、もっと多くの支援がありました。今は援助が減っています。人々は働きに出たいのですが、仕事がありません。援助の減少は、主に人道支援に頼っている多くの家族に影響を与えてしまうでしょう」といいます。CAREは、ギョニユルさんとその家族をクーポン券の配布を通じて支援しています。この支援により、ギョニユルさんは、洗剤や消毒剤、洗濯用洗剤、その他の衛生必需品や、卵、チーズ、パン、野菜などの食料を買うことができました。